

図書館サポートフォーラム賞 木原祐輔氏 推薦の言葉

かのメルヴィル・デューイの功績のうち、デューイの十進分類の創案と並んで重要なのが、1876年（明治9年）、ライブラリー・ビューローを設立して標準化・規格化された良質の図書館用品の提供を推し進めたことであります。後に日本の間宮不二雄がその間宮商店を日本のライブラリー・ビューローたらしめるとともに、青年図書館員聯盟を組織して森清の『日本十進分類表』をはじめ『日本目録規則』『日本件名標目表』という図書館界の三種の神器の開発に背中を押しました。

良質の図書館用品の開発と提供という点において、デューイの系譜に連なり、間宮にも先だって、今日なお連綿とその事業を継続するのが大正3年（1914年）創業という鬼原正三堂であり、今日の株式会社キハラであります。

木原祐輔氏はその代表を長く務められ、2004年からは日本図書館協会委託事業であり、かつ株式会社キハラ創業90周年の記念事業として、歴史的図書館用品の調査・収集事業を先導されてまいりました。

この事業は、日本の図書館用品の一層の品質向上に資するのみならず、近代日本図書館史研究に多大な貢献をもたらすものであることを、私は強く信じるものであります。この事業の継続発展の先に故清水正三氏が提唱された「図書館博物館構想」を是非実現できるよう、図書館界あげて支援されることを期待したいのであります。

すでに会社代表の席はご子息に譲られたと伺っておりますが、この歴史的図書館用品の調査・収集事業は是非今後とも長い目で継続発展させていただきたいと願っております。

これから、いくら図書館資料が電子化され、ヴァーチャルな図書館化が進み、大勢がそちらに流れようとも、館（やかた）としての図書館、現実の空間としての図書館は、情報と知識の獲得それ自体を越えて、共有の「場」、トポスとしての図書館、知の共有地、インテレクチュアル・コモンズとしての機能が図書館の永遠の価値として果たされていくことでしょう。そこに本があり、棚があり、書架があり、書物の森を回遊する人間、利用者が居る限り、必然的に、そこには優れた図書館用品の需要があることでしょう。

株式会社キハラは今後、いま以上に機能、デザインに優れて魅力のあるプロダクトを、国内のみならず広く海外へも目を向け、観察し開発して、若き後継者は是非図書館用品のデザインにも新境地を切り開かれ、新たな図書館用品を提供することを以て、図書館界をより一層好ましい方向へと牽引されることを強く期待しております。

平成22年4月13日

水谷 長志

みずたに たけし